今人子歌菱句集

夏

今人千題發句集卷之二

梅室素芯校正

綿入

あゝ冬ごもり部

小鶯ホヽ鳴入為ハ冬ゐ名り　美古

綿入を居ごろの春の風　芋ち

いと入のをしよりまさる春ゐ　芋帆

綿入のようなれ月よつくゝ向る風　四方

かゝ長き部

四五條の神うるはしく炎
なるを自然降り給ひ
つくの宮ありしうるはしき我
祝ひつく書きくるを師の蓋
仏のうるはしき師なりや師傅を
うるはしく伊勢の俗も思ひうる

飾

つねや陳て無なれの書
いまの奥や書の乳人
つねよりしのの書も末小
つねうるはしく右の付
門松やうめて妻を尋ねうる

仁賢
天山
書雅
石之
梅之
復物

門松

衣冠
狩衣
一雅
相人
ちきの女

掛鞦

衣冠や狩衣を着て白馬
掛鞦や皆る書を入る加茂
出家や一仏の書も二之宗
書を書の社一書よりくる雅小

山影
第古
必ず
百書

書紙

教の子

教の書や毋の書も遠き教色
教の書や一つ俗の俗加茂

花容
金我

飾焚

仏はや一一の飾るく
書一つ書き門尾やのうる焚

精舎
新里

術杖

金屋の防もうあれ術杖あり
の杖や力余てすもうし　　獲物
機嫌

震

震は世て野をゆ夕の行
引の防うもうもうもうあ
年のさまの年のあまくし夕震
四五の八回一　梅杖よこの行くう
二震の稜も震もや門の上　　大梅
年を出て　のもう梅も門の花　　欣志
春もうう蛙のの　もくこの行　　甘息
　　雪水
　　梅迫
　　獲物

陽爻

陽爻や一杖の陽の中もおと　　一帆
楚大もう　陽爻の　の山家八　　雪長
陽爻ば一の山　　苣九
陽爻ば一　梅の迫つあし　重の術　　影左
の年の　よ千て　梅の屋　　棟歌
陽爻ば一　古音の防の　梅杖　除　　柳童
陽出ば一　やて陽よあう門の屋　　源味
梅杖もう　陽爻のう　梅の花　　梅童

夕隈よ　のもう　や屋の梅もう
十の十陽て　もう　他のう　　白紀
　　梅山

帰雁

過ぎ行く雁の声のみ
残れるの山の端の月
霞ませる春の夜の
朧月夜の空の
雲の間に
月の光の
西の海
雲の
卓池

桂

月まつ秋の雲の
末遠く
つき山の
梅の
春雨の
松の
うく桂の
桂の
梅の
梅の
梅の
梅の

花仏
旭桂
春松
春松
春松
梅
梅
梅
梅
梅
梅

蛍
蛍
蛍
蛍
蛍
蛍
蛍
蛍
蛍
蛍
蛍

海棠

海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の

海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の
海棠の

杏花

つゝ宿の杏赤し朱雲の客
雪堂杏のむこうのさくらぬ　見外
杜有

俗時も取まうるきく菊乳
人里よ入りて俗し仙花も菊
桑市もらつこ菊のうつ時　梅逸
旅人の而合してうる菊小　不年
嗜さう香や春も白の春　自古
　　東園
　　兄外

蚕食

蚕食や蚕よ拘る具の陰　素堂
蚕食や蚕経出るよ用もるき　逸流

貝寄風

貝寄や一きう止て松の春　山影
貝寄や毎日よ長き懐の陰　春雨
貝寄風市陸の行春の　好春
貝ト牛のきるよ伸る小松小　元車

かゝ春ら部

一人病てうゝ花ら春ら懶の井　屋外
物消うゝ白懶つぬ小百姓　卓池
麻枕屋の門芝ゝる候四小　光我
春ら春ら懶の井　煎雪

懸崖

新潟なる花ちる懸崖
新懸崖ちる雲ちるき
枝屋絵はは一百のうちも愛ふき
この中を絵かは織きまるは二秋と秋
人まるき懸まるのちは富屋作

顧言
秋雪
雪峰
松井
梅室

柿の花

信州にて柿の花
白しちて芳香まるぬ柿の毛
水織の信州地は柿の毛
四番は一の柿の柿は
別本秋小屋八蕎麦のもの

一僕
万僕
得蕎
仙里
素風

蜜柑

紀州蜜柑は城主のつきし後しる
この人をこそ中若よ咲ちる夏の蜜

鶴子安
大樹

陽炎

蜜柑の山一樹にて行るのよ家多る
山屋しー行の峰にて山の人
僕多行る蜜多多蜜陽炎
家多る人人人中水の書
行の蜜八家多多しる蜜
加蜜多加よ人人中人人
二蜜人人ちる人峰人家多
つの多屋泉の屋泉の屋泉
僕よ蜜一夕蜜多中家多

雪春
水谷
蕉古
東洲

かのまゝ人みなもて鎮けり一むらち　蒼虬

蝙蝠

かはほりや暁し春に出て以る　兄外
蝙蝠も夜さぬ鵜川の闇けり作　九起
蝙蝠やそけ獺の目に淀の町　可篤
かはほりや物像仕舞し魚河岸　孫池
蝙蝠や柳まつる風細し　一鳥

河骨

河骨に捧けのこゆる西日かな　米山
河骨やおる絶ゆる小椿かな　寸考
河骨や流れる水に花一つ　一鶴

風薫

峰一つ花に後れ木の若葉や風薫る　佐光
何ふりは人は鳥来て風かをる　謙庵

蝸牛

蝸牛這ふや門柳自上り　紫白
落るより外なき雲に蝸牛　梅窓
しぐれの落るや井の底から　柳圃

蚊

庵の窓あけて蚊帳にさゝやけり　梅室
物いへば口に蚊の入る夕かな　志摩
蚊の声の宵に押されて松の作　玉林
蚊の声の頻りに喜家の庵　民契
夕暮は蚊に食せめて佳作　蒼虬

梅宮　卓池　一雅

楚考　梅悅　竹柳

この宮中　梅巢　白傳　古傳　龍壺

自の宮只主の力る牧者うめく
什婆こ給もこうそ牧者小
備きこぬやうの水うの牧毋小
考つこうよ牧者考こるや元るの白
為るるの時　鄭人牧やり小
遣所も一人住長の牧者乳
考るわこうこうこう毋の牧者巢

牧遣火

牧者　梅巢　卓池　一雅

住しこや牧者うこうこ巢巢
世話もなく牧者小
四巢子夕めり時の牧やり小

獨り住家も牧者の夕角小　可爾　耕烟
婆巳て家よ住住人牧やり乳　牧雅
形巳るの夕人白紅牧者うめく
結こを宮遊こ牧者の牧者小　石長
一つこうこうもかうの牧毋小　巢牝

牧者

牧者やこうこう住しこ末の戦き　松付
牧者のこうを巳こる古井乳　一條

牧甲

二寸のこて元てこうこ甲こうこ巢　一風
住今こうの住甲牧甲山の巢　石安

うるの子

乙亥
仰白

麻の子

一帆

柏

一俊

解

仰白

帷子

一旭

素堂

仰白

門柱

亀岡子
伝新

行くすゑや春生ふるの小屋の蕎　麦白

雁皮

雁皮咲や白きさらぬに糸畑　蕉門
ぬくもりの残る畑や一雁皮咲　静里

形代

形代よ傍て堤を下りけり　素堂
ゆくすゑやせくもよりて流れ川　白松

牡若

牡若も結てみる菖の根しめ　岱外
菖蒲や つゆくくてまくらくも　白注
つゆてみて咲を曝やや牡若　成切
家合舟の形八隣ゆく春もむ　吉年

結負
物意
重庵
一来
等栄

ゆくすゑやてりつる小物や牡若
ゆくすゑてゆくすゑまくらくも
咲くすゑの形やや白降る牡若
生もらるて海の菖蒲くくりけり
家よ傘さまやきまるやや牡若

かゝ秋くる郭

梶の葉

梶一葉ふるてやるうら屋帰り　屠机
梶の葉やつゆくくしきまくら　石雷
ゆくすゑのもや人よ曝ゆくすゑ　素山
童ゆくすゑ形やや梶のうら　表　鯨安

門葉　　尺山
　　[illegible]

貸小袖　　大梅
　　松什

情婦　　大梅
　　遠方

うらし　　苔九
　　松自

一池

秋の[illegible]

鳥瓜　　瓜　大梅
　　我秋　義の[illegible]
　　[illegible]の家松の[illegible]　苔九
　　[illegible]　石[illegible]
　　[illegible]の[illegible]　瓜　義春

貝剣葉　　鯨[illegible]女
　　牡の土の水[illegible]貝剣葉　呼自
　　貝[illegible]葉[illegible]の[illegible]

　　[illegible]の[illegible]義[illegible]　兄外
　　[illegible]の[illegible]　自[illegible]

雁

ひとつやはなるゝ白雲の声　樵野

隣田へ行まも雁の行くくし　布伯

落ることしは新る月の声　寄之

ひとるや山も遠ひし白のひる　竹丸

白近き川のうねりや月の声　一滇

暮んする浦の夕やけるゝ雁　卜芳

柿紅葉

このまは堰見ゆる山路や柿かきる　僕物

書給しくて隈ろやかすり柿紅葉　可亭

柿

家よりも柿の国まるつ山村の秋　稲体

山路やし楕の柿につく　移。素丈

雀麦

雀麦と引や もと秦まつ松　波路

雀麦は生まるゝも秋の小山かれ　兄外

荊萱や浦竹とりまた同し色　何丈

かノ冬之部

神無月

冬るかしゆるき坂やし神無月　完伍

とは村も暮風にねて神無月　京二

薫くゝも壇の見ゆるやし神無月　案三

水鏡に見へける枝や帰り花　海山

帰花

咲ほこりたる桜の花の散りぬるを惜しむ心は山

枯柳

柳うゑ置きしかたもなくなりて枯れたる柳一株白き雪の間に枯れたる様

樋の花

山吹の流れ中なる樋の末の下茎なきに咲きたる樋の花の散りぬるを惜しむ心は山

枯尾花

なほ残りて尾花枯れたる端ばかりやうやう穂のなびきたる尾花の枯れたるを見つけて枯れ尾花と名付けて秋の月の光の陰に残りたる尾花の枯れたる様

墨農外外相応

枯萩

萩の花の散りぬるを惜しむ心は山

枯芋

枯芋の枯れたるを見つけて枯れ芋

北京肯米

山々五里隔てて枯れ芋八里隔てて枯れ芋の糸

梅宝巴陵

枯野

枯の野人よ問ふ枯野うれ
雪雪のみくてつるき枯野八
葉ものの去るこの野原
枯野なるかのそ野よりかすり

柳加
藍吉
京五
素考

俳句の鴨俳句うくいくいく
俳句俳考ふ鴨の毛
水筋八四るくるや鴨の考
鴨や鴨くるぬきん降
去為の相考よゆるる灯八
ふふよ見て白ちふ池の鴨
鴨俳句鴨の俳句の俳句

然く
越素
みれ
亀越
一の文
吉年
白吉

鴨

元の鴨よ度りて見ふ小鴨八
地と陸のくくるき白や鴨の考
ふふ四よ白の鴨て鴨の考
下し考一一四年寒る小る考
鴨みくや白白白白白の考
風よみる考の考や鴨の考
鴨みくや抱して法八本鴨屑
鴨ふや見て白くくる考

甘蔗
松園
甘院
相為
新

一九
椿居
白波

紙子

寒衣拙手の紙子考の事
考て生八人の衣考
考つるね八ぬくふ考考紙子八

柳煙
乙吉
完考

紙衾　一雅　方言
神送　柿園　古風
巾着　獲物
棟鶯
暖簾

神の留守　栗人　永久
神旅　雪堂　五耕
神迎　霞汀　谷雪　山外　仮寝

神楽

白雪の外よ神楽の響かな　峰の白　高三　麻布

乳くらいの橋渡りて歩行の　東京　仁里

橋や一つ月よ八幡ぬはきこゑ

雪の八

雪やの八　大橋　北山

雪八や一松一色の戸庵哉

うゑの八佐々木物を書り　秋瀬

山雪を烟りの迷ふや紙八　万像

雪の水よりくるや雪の八　玉岡

雪角

庵りよ八雪踏まくの角　一巡

雪よ降りて降り雪の角　東皐

うら雑

我橋よ似て舟雑の行雪　遠流

うら雑年うつる村仁の竹八　一旭

雪雪

雪雪よ大井京のうまき瓜　高三

雪雪や思ひ出みきこゑる秋中　いて女

雪こゑや神八ふるの峰て雪　一旭

雪雪よ稜りの雪の雪り　一帆

雑炊

りりくゑ雑炊るや侍社上　玉岡

月の外物なきこゝやしの柏ふる　小鯤

白兄さや霧隠もなき飛ゝ影　亘山

白ミさや影挑灯も要なしき　花谷

穀ミさ

春ゝ月

春ゝ月や豆腐の売の一声しる　菫丸

春ゝゝや床よす簾のちまらさ　一帆

春ゝ月の光りをちらさ松葉乱　松叢

春の月親庁寄て女よ乃り　桂志女

春ゝ月や宮司ゝ乃の梅　見外

春ゝ乃り伸し多摘や春ゝのゝめ　五蘇

春ゝ梅

春ゝ梅や一乃わみ付し菰の一基　古錦叟

春ゝ梅や西干亀へ乃のつゝ　山中

春ゝ柳

よけるた行年来ののや春ゝなき　甫山

咲てゐる雨まりおゝは春ゝ柳　梅什

春ゝ初雛

春ゝ振雛や月よ赤くいさき雛法師　東雅

春ゝ乃りハ修せの外の身匂ひ乃れ　篠獄

春ゝ為佛

草ねハ淋し草ね殺乃らし春ゝ為仏　玉遊

達くよ乃わゝ絆揚なし春ゝねゐ　如仙

殺乃ゝしる果八ゝなきを春ゝ為佛　完伍

鮒
竹
蕨

鮒竹蕨物や師走の雪まよふて二の葉

一鈴
伏見

魚屯

魚屯よろつとくらのもや角付物

菓園
蜜菓
重縄

魚屯や鈴くらかし師走くき

重菓

重菓や咲くらくるつゝまやの

重宝
長名
一旭

重菓きくや弟の命侵の葦の宮

重菓まもるら織竹のくらく

高手

二度降て雪よりくらくこの名つく

昌風
惟歌

ちらつて降てほやこのくらく

貝焼

貝焼や白やもくらもしきつくる

南枝
霧屯

貝焼や世をのくれる侍者か

貝焼や香名るくる板加織

山方

よゝの妻くゝ部

焼る鮭をくれてつくる余重小

卓池
惟安
玉子

焼の余の名の縮屯

梅柳夫る雪くんあゝ

俳諧のつゐて相よむ余事乱
発句筆の風ゑこゝろる余事小
事うつりるや余事の市吟
大空のゆきゝ付し余事小
まくの縫よ新の余事乱
縫しまの丁度ゆき余事小

余事

一桂 蒼虫 風郎

稽古ゆゑ八ゆき嫁菜ゆゑ
俳くゝと見て特ゑし嫁菜小

嫁菜

兎仙 百壽

義士ゆゑ見ゆる糸や呼ゆる
ゆゑ秀よゆゑこゑ思ひゆゑ

呼ゆる

一僊 一の大

ゆゑ有る特ゑのゆゑや呼ゆる ゆゑ 田代

よノ春ゝ新

よ切や赤紙ゆゑ俳ゆゑ 水鶴
よゝゝや角先ゆる西ゆゝ 白陽
よ切や俳ゝ特ゑゆゑ 千代多
よ切や芋ゆゑ吟 扁 兼雅

よノ秋ゝ新

旅筆屋ゆゑ見ゆゝ新小 良捕

秋意

由賀茶賀の秋意

秋は物ハかなしき色なれ共
なつかしき名残の秋の夜長哉　小仙

風吹るあとの寄せ来る秋
一人ゆく二人秋きぬ白い雲　由聲

遊子悔寄や秋意の町さつれ
ゆく人を撲よ秋意哉　雨宇

秋興

秋興に鬼も組んで寄る哉
秋興に星の行くさまを小
夕寄　山佳

猪魚を捕よつけるやうな郭
行くさの面風さんて猪走し　良策
猪走女

蕎麦

蕎麦の花ぬ蕎麦の雑や夜寒き
物幕のうるハ水さや蕎麦雑　菊仙
蕎麦物

大根花

蕎麦ゆいや大根の毛を見覚る
門掃く蕎麦て立ち咲大根哉　柳壹
蕎麦

蒲の英

蒲の英ハ秋戸口の出茶屋ハ
蒲の英やうるのうまうも茶屋外　雨外
蒲の英

竹ノ葉ニ都

笹いろ〳〵竹のるゐ
笹をうるうち若葉小而小　紫山　義仁
竹のるゐや菌のもとハ只高し　生苔
笹や時るまゝきゝ　二三尺　只外
しゐのこや竹まて長きもの　梅々
乾しゝよ竹のるゐなるや　物ゝ庵　帝柏

鶴や出て竹　小笠原　由雄
ちゝのるゐ　鮮義して画る竹のあ　葉静

竹

梅や竹を枝竹の白きもし　見外
せきまるや菊の玉巻　咀紅　紫白
菊のもとに玉まく葉のもとに　雅麻

時きつゝ生つ巻の竹の葉ハ　晏芽
竹　糸紅葉葉ハ　義の紀し　護物

竹ノ葉葉

竹　年

もゝ木のもとに葉ある竹ハ　山外
峰よ巻こゝ自ゝき竹年ハ　葉葉

四竹しと紅や生ゆの竹ゝ　緑竹女

田植

植まで田の六上り明鷺　宣和

三冬の田に影なしや松の家　重庵

門鏡え田の植やうも書つけり　遠橋

四方はる見遠き家や田植留る　小年

見わたして白水つゞく田植哉　京信

植代に杉の末踏む山の田の明り　卓池

魔着て尻上げ傍のはての田に見る　作賀女

草取

草とりハ家に夢見てゐる　重庵

下冬ぬ行くる見へし草　松村

刈る芦ぬ火入の臭や夕明か　為代女

田草取

老ずへ出て休みけり田草取　仁里

白水かゞやき田の草とる　文之

ゆつくりと出て取る出る田の草か　俊亮

舞のこや午も田草取　采徳

玉巻芭蕉

去年一葉ゐて玉巻きを何　護物

玉巻し釣や芭蕉の一葉うり　卜早

まきはしのはまき　子濤

たつ秋之部

秋立つや何とましき楼の音　寿山

立秋

立秋に何をつゝきて蝶しらぬ　遠流
戸の明きは秋とつげたる匂ひかな　路二
秋たつやまた夜に入て鏡とき　梅居
秋たつや傍手の経に花ちらふ　抜古
秋来やおもふうちねる我新　梅窓
灯もまた秋たつ色や桂木市　光外
秋立つや来にし眼に入鏡の音　蒼虬

七夕

七夕やいさ山に出る月の青みてし　梅影
七夕や舟に金銀入てもらふ　誠彦
七夕や小袖のうへやしのぶまゝ　芝遊
七夕の夜はなを侍るてあかりかな　竹二
七夕や枕のもとし若ゆる　乙良

大文字

闇ありて頼く蟇大や大文字　梅道
鴨川の底も光りつ大文字　秋雪
大文字の勝て燃けり秋のかげ　素柳
大文字の火ある光を此杯の橋　冗外

龍田姫

紅葉の毎たつや龍田姫　尺山
来るさはく雲をもつみてたつた姫　巳角

竹の実

垂るゝ雨も竹のさゞる机や竹の実る　梅池
竹の実の香も添ひて竹の実　一流

煙草

菊の[illegible]ねぬ[illegible]や[illegible]農　[illegible]松
風の[illegible]千葉[illegible]ひ[illegible]つり農　一[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]や[illegible]農　[illegible]外
[illegible]や[illegible]　[illegible]国
[illegible]や[illegible]　[illegible]市
[illegible]様の[illegible]　一[illegible]
[illegible]西[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]

蕎麦

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

柳絮

[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

柳絮や[illegible]の家　一[illegible]

田西日

[illegible]や田西[illegible]　[illegible]
[illegible]や田西の[illegible]　一[illegible]

蕎麦の花

蕎麦[illegible]植つ[illegible]び[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]や蕎麦の[illegible]　素風
[illegible]毎[illegible]の[illegible]　大[illegible]

田苅

[illegible]の[illegible]田苅[illegible]　素[illegible]
[illegible]田の上の[illegible]の面　[illegible]

烏賊

義経ハ[illegible]の[illegible]烏賊籠
本や[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

大分の魚

俎板ハ[illegible]の義[illegible]大分の魚　卜部
味[illegible]人ハ純[illegible]や大分の魚　[illegible]
俎板の[illegible]の大分の魚　[illegible]方

九ノ巻之部

大根引

[illegible]の木ハ[illegible]
[illegible]
大根引て[illegible]
つけて[illegible]
年[illegible]
[illegible]
大根引[illegible]
大根引て[illegible]

布国　一[illegible]　花[illegible]　[illegible]左
[illegible]　一[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

炭売

[illegible]て[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]　[illegible]
[illegible]

舞

行平行る舞よりのきたるを
表行乗の中をつきの舞を小
きつ舞や当の行きのうち舞

文門
宗山
栽房

ほつとるの巻や一番の一初立
小一る侍しのきまる鶯巻小
若百や乃りくまる舞の鶯
鶯巻て戦考振きる侍小

相古
尺山
梅吉
小鶴

牛角

この行ハるきしきつ牛角小
松竹をなけて乃て牛角小

義丸
和柳

遠ヶ忘

遠ヶ忘ハ玉踏ハ玉踏
ゑるまを忘や尽の白ゑの中の松
遠ヶ忘や鶯巻美のうま二ゑ忘
遠ヶ忘や鶯くつるも梅宋牛
ゑるま忘や吹牛るま情ま

栄人
英山
古山

玉ま園

伝人のま霞ま度や玉ま風
人の高ぬ赤ハ乃つのうま風

竜古
梅山

陽陽

牛一尾を嫁ようまを白陽小
梅のきゑる赤まゑゑゑ乃小
ゑゑきめぬ白陽ゑ作のきめ安き

梅吉
豆鶴
石陳

礼ノ無之部

禮者

あるハり礼者来ぬや酔さめり　大梅

居住り直して来る禮者かな　小竹

錠ハ掛て帰る禮者かな　梅之

爰袖の礼者中しや通り町　亭池

連翹

連翹や又一花の咲きかゝり　文山

連翹の葉ハ若ながら花の時　蒼氿

連翹の花や手近き茶の水　左示

連翹やちる時花のかゝる　雪庵

礼ノ夏之部　無題

礼ノ秋之部　無題

礼ノ冬之部　無題

弓ノ春之部　無題

弓ノ夏之部

空豆

空豆の花咲頃の名残かな　恭則

そら豆の花ハ香りなし雨上り　澄緒

そら豆の莢や背戸なつく畔　山方

菊花

菊苅

うノ秋くゝ部

谷川の蔦合角ゆゝしきの古　去通
七夕の札も書きれてそハの花　其儀
菊葉やめくる蔦しこゝの毛　猪狸
大家を出るまきんてきはの古　野遊

夕月や菊書刈りしうゝ山の根　宣稜
そゝ苅や菊をうけて宮仕者　横山

雪車

投炭もゆくゝ大きるはしゝ雪車の炭　仮寸
秋くまく一枚垂ゝ雪車の紫　牡徳
此奥も人きもゝ雪車の紙　春笑
雪車引て蔦くるまもしいゝ　本上
賊くゝる形もゆゝて紙の雪車　完車

つノ春くゝ部

くくくくて屋根物ゝ桂乳　一具
鮮の上ゝ月て皆きるつゝ　先存
ゝゝくくゝ春をつくゝね横くゝ　尺山

棲

紫州の原人は吉野山つきて作り山にて為す也 俗物 秋の

棲る一番つきぬ山のうち 赤棲 物産

為すべく角のもとを棲為す 棲山

物の為る下の棲の咲年々 蒼札

一年人の棲もつる為 産外

綱曳

綱曳のきわ立て戦をやりの所 和好

ひき棲て棲しを為しうつ 棲山

一村よりつき種の上を作 薩松

花盛

梅木

聲もやく御傳て庭の梅種作 一名

種をうえてまつ梅木作 書譜

きり年ゆく伐て梅やり梅木等 静里

咲くれは色うの外のつき木有 夕林

梅木は花はもあれと青ちう 玉山

土菅

梅白やを踏打とつくし

蔦出る色とは花をくし

打うの色は花人も為やは土菅

松のるのはつうう為てつくし

打年よりく注人色多有 大梅

可梅

伊路

色有

燕

一屋の内にすくふる夕顔の
ハなのかゝ[illegible]より出て蕚あり
相まて[illegible]よりてさやつかうめ
白日よりかけぬしるしあるは佳景小

懸燈
懸燈
高丸

茅屋

茅屋の庵るやしるある茅屋小
茅屋[illegible]の蕚白赤

[illegible]泉よりさしてなるく[illegible]
屋の上うけて相[illegible]
相て[illegible]
つ[illegible]

不年
[illegible]
[illegible]
[illegible]

所山八合の蕾遠きつゝしる丸
山[illegible]
夕蕚の遠[illegible]

晴白
見外
蕾所

一ノ蕚之部

蕚新の植物よりやや微白の
入株[illegible]
[illegible]の株白の[illegible]
[illegible]の株生[illegible]
[illegible]

梅雨

梅雨

[illegible]池
大梅
[illegible]
[illegible]
柳園

辻の花

手習者の小堅手にてやはらかなる辻の花
手ならの所為にて辻の花
見せを考て伺をやとこんせう辻の花
上京ハ如何ゝ為ん辻の花

つゝ秋うゝ新

人住ハ新ハ隆まし　山の寒　蒼札
五つ月の新まも東　中　鶴の糸　ちくさ女
うゝしさよみのうゝ　鶴　毎の寒　梅童
夢幸の寒隆うゝ　中　件梅子　無然
寒おくやいつの梅の下うゝ上うゝ　乙吉

露

秋市の寒も夢うゝ思いうゝ　梅雪
垂隆も備隆ゝ寒のゝ玉　小年
のさして寒うゝ寒のまうゝ　木屋
山寒や寒るの寒うゝ　鄰丈
義ゝるの秋うゝ中の寒　白雄
山つゝの垂市うゝ寒うゝ　素雄
寒つゝ中ゝ寒ハ寒ゝ秋の寒　蓋雪
おくゝ寒ゝ九くゝ寒ゝ寒のつゝ　接松
牡門中山寒ゝ秋の舟　梅巣
秋寒中寒隆の寒ゝ自ゝ　青松
荒隆中寒の庭ゝ秋ゝ寒　見外

月

月の雲　茅古
水まさて八月の雲　梅逸
次の百人一首八遠山杉　一尭
末枯や宮の光八月の雲　栄月
月の舟梓弓　雄
雲ゆくも月の舟　梅文
一世帯八月の月　天狗
月の舟義経出る　雪月
月の八絵　秋の月
限なくて月秋八　松泉
宿かれ八月出ぬ　梅盆
月の笠動かして秋の月　仙路
月の角月八　一雅
森盆

月

月ある出て八月さけるる遠ある　丈峯
末枯て月八月ゆくれ山の　帝桐
出るあて月ぬ月の　柳慌
月ちて末廣く月の秋月八　静月

蕎麦

蕎麦もあるき月の秋の月八　杜水
月ゆくる月の秋月　梅盆

蕎麦時雨

蕎のいつもしらし蕎麦　雅竹
義経ある影ある蕎時雨　億谷
ある山の蕎麦　芭丸
竹ある時雨　一帆

霧雲

秀雲や鳥去て霜に葉蔓　清水
つゆ雲や舟うゝ上る伝り家　雅麦
雲雲や剥ちらる杉の皮　復物

菅

夢い事八尺の霜きらゝ菅の穂　ちらす
きらゝ冠百千菅の根ね小　成吉安
恵の戸ド冠伝たの菅ゝつゝら　三寛

つゝ冬ゝ郭

冬屋ゝ焼しゝ石蕗の花　大林

石蕗花

石蕗咲や二番四番の二番茎　歳高
ぬくときを陽を吹ゝ石蕗の花　大恒
石一ツ雲人も吹ゝ石蕗の花　山外

陝中

あまゝゝ冬ても九陝中　吉年
春来して冬なる陝中ゝ　都丈
抜ゝ八冬なる世ゝ陝中小　高泉
何春も春きゝ冬なる陝中小　桂林

水桂

いときゝ水桂真ゝ水桂を押桂ゝ　沙陽
二之枝葉も咲つけるつゝ水　茶古
吹る枝の伸ゝ水桂小　伸流

[illegible] 苔丸

綱按

綱ぬきも歩行者のよきを用ゆる事なれ
つる梅よ剪て時しき時ゆ丸　尾山安
梅山
[illegible]ぬきゆ言葉のよくまる上にて　山方

ねノ葉ゑ和

年賠

年[illegible]ぬ[illegible]賠ゆ　青雅
年[illegible]ゆ年賠ゆ　侯雯

年

年[illegible]ゆ[illegible]人のよ和　卓池

礼

[illegible]礼ゆ一つゑ井の[illegible]法法　兄外

子ノ日

[illegible]物ゑ[illegible]ゆ子ゑ[illegible]ゆ　一[illegible]
[illegible]礼て[illegible]遠[illegible]ゑ[illegible]ゆ　可厚

子ノ日松

松て[illegible]ゆ[illegible]ゑ[illegible]ゆ　李陣
[illegible]ゆ[illegible]ゑ[illegible]ゆ[illegible]ゆ子ゑ[illegible]ゆ　李池
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ　蒼机

[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゑ[illegible]ゑ　卓池
[illegible]ゑ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゑ[illegible]ゆ　雪舟
[illegible]ゑ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゑ[illegible]ゆ　一帆
舟の猫伺ゑの[illegible]ゑ[illegible]ゆ　一雅

猫の恋

恋猫や一茶の句なる人の恋　和風
ねこの恋ひとりの行て表をり　斗従
家の梅の蕾ふくらむ村中ねこの恋　柳童
恋ぬけし猫や一番ふくらむ小一日　巴僕
ひるゝ鎖もなる秋八幡て猫の恋　育節
恋猫や一気つくるるやうなる　松阿
夢ふかき恋ねこ恋ねこ恋　梅宝

但槃

物一つ下りる但槃の像の苔　相商
花ちるや八重ゝ但槃像　學秋
但槃寄や雪ふる山の空　俊寿
但槃ねこ及ぬ恋ねこ像　素屋

ねまれ寄や乃ふる庵の寄かな　龜遊
梅ふて住や但槃の小ひとつ　梅宝

白ノ春を都

千てはるつくろふ舟や今歌の古　良輔
今歌の花俤ふ代の花ふ　花古
なハ梅をまるれて今歌の姿ふ　卜孝
俤つくる家ふしふりねふの古　大鵬
門屋ふ庵下して今歌の花　出兮
繁ふる舟ふ人ふ花ねふの古

合歓花

生の蓋より取て通りを横切む　蓋の少
時きりて小さく細もの切を横に
引みを細もの切を横に　序尺
等生も長きまゝ横に切り　甫山
長きより細こゝ横に切り　五書
横切　横切

ねノ秋ゝ部　春部

ねノ春ゝ部

まゝこの所にてさゝ所蕪一抱　健ゝ

葱

蔓菁の赤ゝしきる所に初夏の朱戸　獲物
ねぎの香の味義を赤る孫蓋小　雪水

子燒石

子まゝの所に焼る本物　改子
焼子蓋菜の若ゝる炭石　体外
長ゝまゝこゝ焼る炭石　ゝ安
家中庭中焼ゝ子焼石　山方

なノ春ゝ部

ふゝと焼て石永一峰の雪　直稲
長きるゝ中ゝ焼ゝ　みつ

氷きる

傍手のこゑて鳴るる氷かな　嘉一

氷きるやしろうみて汐濁　素雅

蓮の香の町近うきる氷かな　壺庵

きりきてかゝる氷うつりぬ蓮の波　卓池

梨子杯の下よ梨子うゝる氷かな　杜水

なも氷くゞるやちらから人通り　尺山

海士ゞ子の海より戻る氷かな　菜新

七草

七草のあの仕舞や仏の生　飛て女

七くさも七草て椀より長き若菜かな　林曹

七草や雪敷豊も規式めく　二丘

七草を仕まうてかし賦りけり　茶之

薺

余寒の地も摘まで七草そろへけり　多岐

七草や他よりの伸き　庵文　静里

名一つて今年も仕舞薺かな　風朗

神の婚て斧初めるなつなかな　芝丸

水よりくさ之雪のけふる薺かな　竹斎

係より先へ斧の薺かかし　瀧自

灘鍋の底て打き鳴るなつなかな　倚半

ひききらまぬ自つくいや斧薺　梅室

当代よ近江の窓や且好寺　卓池

薺しろや心く暖も為こうり　愛泉

苗代

苗代や去まりの行てまさに　苗と
苗しろや田毎に星の山　杉檜
苗代や秋を終る蛍の光　一具
山蔭やしろの苗代も家近し　生方

苗代菫

行くすめと苗代菫の俤とあく　梅吉
ひらひらと苗代菫よりの蝶　雨竹

俤も咲や病葉の長きの　孫蝶
流れ来て菜の花咲や河原　杜水
菜の花や蝶とも人の つれ　龍之
菜の花の水田よりうる山松の丸　石鼎

菜の花

菜の花や一家尽てうち二出り　一旭
なのはの縁よりつくや雨上り　尺山
菜の花や松を去りの国境　京風
菜の花や名ゆる海もうく四ツ　梅山
菜の花や俤去の松を果すて　梅京
菜の花を行ゆくや松の風　芝九
菜の花や田へ入てんて一面　卓伸

梨子花

桃花や角丁ときき梨子の花　甘棠
白こうまと音ふるやうの花　紫白
花を咲て浮ハ寺を去り社　俤雲
ハ寺のうらうつるや子の花　山方

夏

夏木立

一

なつ〻夏こゝろ初め

暦〻の多くは里の夏木立　春他

秋元老八十翁こゝろ

夏木立　一雅

新の春雪元の夏木立　十子

人生こゝろ生義や夏木立　蕪他

春こゝろ樹も草や夏の月　帝國

僧一生昇る八十翁こゝろ　嵐雪

夏の月迷ひ陣の里こゝろ　卓他

一止

夏の月

夏の雨

夏の月こゝろ〻ぬ夏の月　一子

海上の孔明夏の月　移動

月つきも書のよつの夏の月　素堂

風吹て夏の無行や夏の月　雪篁

夏の月舟よ高き糸こゝろ　素水

夏の月出こゝ義る田面　蕉

出て行海嶠の夏や夏の雨　卜早

降出こゝまて夏つの雨　蕉夕

夏の〻中白雨の伸る和　蕉古

降も出こゝ中苗の花　丹治

苗

山にうゑおきたるや苗一把　素山
苗代にして人の植ぬ稲田哉　稲麻

稲妻

そぬれて稲てあるにはかりなれ　一鼎
つまもあるは数の一つや稲妻　杜鵑
あるる人の顔てゝ細うや稲妻　麟宮女

夏野

人しらぬ花てゝ秋かゝる夏野　松園
一時の秋白まて傳ぬる夏野　迷圃

柚懸

文字かなを迷て四るや柚懸　弓巷
なめらう生るやうちまち白の雲　古古女

夏痩

夏痩やまて四月の白の雲　花丸
夏痩の生の腰しまう白の雲　傳書

夏空

夏の空只ゆゝの花のまゝ　傳書
一雨うゝ降るも夏の空　同乗

夏草

夕しの白の雲うゝ夏の草　白蓉
夏草やまの月もあき　蹴雲
雑草や一白生て花遠てる　物言
あてゝこや降る傳ゝ夏の草　青雄

瞿麦

なてしこに折て見れハ色のなる　貞山
撫子やしほれに芝へる樋の條水　野外
なてしこしくれや花に重ね付ん　依路
花の実の甘撫子も草の中　乙良
瞿麦や一つの露ゆる乏の種　蒼虬

夏山

ふるの月ハ見れ一色や夏の山　無名
晴てゆく山傳ふ山夏のかしき小　直猶

夏氷

見ぬうちの人をそろし夏こほり　松什
錦装含て水に慶や夏氷　如柳
見さやけしろさをかり氷かな　卓丈

夏祓

川上の凉しめるや夏祓　晴風
夏祓出来て鷺のかへりけり　己哉
夕月や花かつ落て夏祓　小山
ふところへ入てかへるや夏祓　松古

在ノ秋之部

東

年のへるをくへる殘るかめの外　其雅
千行きてめそり毎にし垂小　同示

長キ秋

長き夜まる夜敵もまめぬ秋の丸　卜宇

白雪の降て積れる夜の
神の田や時ならぬ水屋も木根
鶴の宮や生てあらふる月
曳網て遠き書のしくしくなるみ

時子

南天

南天や実のうつくしき秋
南天やなのしくしく秋の庭

長自

長自や百代の松ふる
長自やなつかしきの山

長崎　長崎
西自

納豆

納豆の味噌汁の香部

本町ふるまて金まつ納豆
おしの子の打きなて納豆
古屋めく納豆汁の絶えあり

昇峰
文鄰
清自

生海鼠

鮭の腹や生海鼠の白い
指ふる此さしいやなまこの香
ふるなつかしき生海鼠

兄外
第古
義女

ふの巻終

ちノ春と新春
ちノ秋と新春
ちノ冬と新春

猟八

猟八书春と冬のさめぬ義の為　一の禽
猟八书鳥と獣と百目獲　獲物
猟八书虎上の春と獣の春　逸禽
猟八书春と书咲ける梅の春　子傳